

## コミュニティ協議会との意見交換等のまとめ 個表（案）

八幡町コミュニティ協議会

### ① 運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上

<p><b>利</b>用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】住宅街にあり、また、高校生などが勉強で利用することが多い。</p> <p>【工夫している点】多くの方に利用してもらうため、当日その時間帯に部屋が空いていれば、1名からでも申し込みを受け付けて2時間まで利用ができるようにしている。また、ホームページで予約状況が確認できるようになっている。</p>
<p><b>新</b>しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】子どもを対象にした事業を増やしている。それによって、保護者と子どもの利用が増えている。</p> <p>【工夫している点】子ども向けのクッキング教室を開催するなど、親子で楽しめる事業を展開している。</p>
<p><b>施</b>設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】2階ラウンジを学ぼうルーム利用者の一時休憩場所として、また、2人以下の事前予約ができない利用者が当日記名のみで利用できる場所としている。</p> <p>【工夫している点】学ぼうルームが満員になる時期は、空いている部屋を学ぼうルームとして開放、また、ロビー利用者の多い場合は机・椅子の数を増やしたり和室が空いていれば和室をロビーとして開放したりしている。</p>
<p><b>情</b>報の提供</p>	<p>【現状】2カ月に1回コミセンだよりを発行、市報、ポスター(地域に15か所)、ホームページへ協議会の事業案内や地域行事等を情報発信している。</p> <p>【工夫している点】事業の内容により、千川小学校でのチラシ配布、千川小学校PTA便りへの掲載、千川小学校保護者が登録している「マチコミ」のメール配信、青少協ホームページへの掲載、地域団体へのポスター・チラシの設置など、地域と連携を密にとり情報を発信している。</p> <p>【特筆すべき成果】マチコミ利用で保護者に直接情報が届き、今まで利用したことのない層の方が事業に参加するなど、コミセン運営に興味を持ち運営委員の加入につながった。</p>

## ② 地域におけるネットワーク機能

<p><b>利</b>用者・利用団体 とコミセンとのつ ながりづくり</p>	<p>【現状】新春のつどいやはちコミまつりでは、利用団体間の交流の機会になっている。</p> <p>【工夫している点】新春のつどいやはちコミまつりでも、コミセンを利用している団体(21団体)の活動内容を展示する機会を設けており、相互の活動について理解を深めるよい機会になっている。活動展示などを通して利用団体間の相互理解を高めている。その上で、利用団体間が連携して新たな事業ができないか、各利用団体のニーズを拾いながら、共催事業につなげるような工夫を取り入れている。</p>
<p><b>地</b>域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】限られた運営委員の中で、新規事業を行うとしても一人ひとりの負担が非常に大きくなっている。</p> <p>【工夫している点】はちコミまつり等を実施するにあたり、千川小学校のPTAや子ども会、青少協等と共催としている。できるだけ地域の団体と共催をしていくことで、様々な事業が実施できている。</p> <p>地域団体への会議の出席だけでなく、特に千川地域福祉の会・千川地域防災会・青少協千川地区・千川小PTAや、千川おやじーズとは積極的に交流を持ち、相互協力できる体制がとれるよう工夫している。</p>

## ③ 持続可能な協議会の運営

<p><b>運</b>営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】仕事や子育てをしながら協議会運営に関われる体制を整えている。</p> <p>【工夫している点】特定の時間帯であれば協力できるという意見を尊重し、調整を行った。</p> <p>【特筆すべき成果】新しく運営委員が加入し、そのつながりにより、また運営委員が加入するといった良い流れができた。</p>
<p><b>持</b>続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「歩こう会」といったコミセン外での事業を多く実施している。</p> <p>【工夫している点】「歩こう会」は20年近く続いている事業であり、もともとは山登りなど自然をテーマにした企画が多かったが、最近では参加者のニーズを踏まえて、話題性が高く、人気のある施設もテーマに取り入れている。</p>
<p><b>活</b>発な協議会運営</p>	<p>【現状】多世代の運営委員が活動しているため、様々な考え方があがるが、運営委員同士で話しあう機会を積極的に設け、ニーズの変化に対応した事業企画、施設運営を行っている。</p>